

大 賞	企業名称	株式会社中外フーズ(東京珍味食品協同組合)
	取組名称	くじら軟骨を使用した商品「くじら梅水晶」によるSDGsへの貢献
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	4(質の高い教育をみんなに)、9(産業と技術革新の基盤を作ろう)、11(住み続けられるまちづくりを)、14(海の豊かさを守ろう)、17(パートナーシップで目標を達成しよう)

### 【取組概要】

未利用部位であった鯨の軟骨を使用した珍味「くじら梅水晶」でSDGsに貢献しています。食品ロスを削減し、持続可能な食文化を未来へ繋げることを目指しています。また、科学的な資源管理のもとで捕獲された鯨を使用し、伝統技術と革新を融合。漁業者など多様なパートナーと協働することで、地域産業の活性化と海の保全に取り組んでいます。

### 【実績概要】

捕鯨文化の継承とSDGsへの貢献を両立。未利用部位であった鯨の軟骨を「くじら梅水晶」として商品化し、食品ロス削減に貢献。さらに、科学的根拠に基づいた資源管理のもとで捕獲された鯨のみを使用。伝統技術と最新の加工技術を融合し、新たな食の価値を創造しています。さらに生産者や流通業者との連携を強化し、SDGsの複数目標に寄与する取り組みを展開しています。

### 【評価コメント】

○未利用資材の徹底活用、科学的根拠に基づく資源管理、伝統技術の継承と革新、生産者との協働は、効果、普及・汎用性、独自性の観点で高く評価できる。特に、伝統技術の継承と革新、生産者との協働は、複合性、参画性、将来性の観点で非常に高く評価できる。

○捕鯨文化の継承とアップサイクルによる商品化を実現していることは大いに評価できる。今後はこのような取り組みを様々なステークホルダーに発信し、理解醸成を図っていくことに期待したい。

○未利用資源の活用自体はこれまでもある取り組みですが、鯨の未利用資源という点が新しいです。また、新たな商品開発と販売という取り組みも持続性、発展性を感じます。

優 秀 賞	企業名称	マリンフーズ株式会社(東京珍味食品協同組合)
	取組名称	マリンフーズのサステナビリティへの挑戦 ~企業理念に基づく6つのSDGs推進施策~ ①持続可能な漁業・養殖業で生産された認証商品の取扱拡充②ダイバーシティ推進③CO2排出量の削減④外部認証取得・浸透による環境・品質への配慮⑤サプライチェーンにおける人権リスクマネジメント強化⑥「海ごみゼロ」清掃活動の実施
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	3(すべての人に健康と福祉を)、5(ジェンダー平等を実現しよう)、8(働きがいも経済成長も)、12(つくる責任 つかう責任)、13(気候変動に具体的な対策を)、14(海の豊かさを守ろう)

### 【取組概要】

マリンフーズグループでは、「持続可能な社会への貢献」をテーマに、企業理念に基づいた中長期的な取り組みを推進しています。双日グループの一員として、事業を通じた社会的価値と企業価値の最大化を目指し、社長が委員長を務める「サステナビリティ委員会」を設置。全社横断でSDGs達成に向けた活動を統制・推進しています。社員の環境意識向上を目的とした「海ごみゼロ」清掃活動も実施しています。

### 【実績概要】

マリンフーズグループでは、認証水産物の取扱拡大、CO2排出量の削減、外部認証取得など、持続可能な社会の実現に向けた多角的な取り組みを進めています。多様な人材が活躍できる職場づくりや人権リスク管理に加え、「海ごみゼロ」清掃活動を行うことで社員の意識の変化を促すなど、企業活動を通じてSDGsへの具体的な貢献を果たしています。

### 【評価コメント】

○企業理念に基づく6つのSDGs推進施策は、普及・汎用性、複合性、参画性、将来性の観点から評価できる。特に、サプライチェーンにおける人権リスクマネジメント強化は、複合性、参画性の観点で高く表ができる。また、これらの施策をサステナビリティレポートで示すなど、自社の取組を公表している点は、高く評価される。

○MSC認証、ASC認証取得の取り組みに加え、ダイバーシティの推進、CO2削減等、多岐にわたるSDGsの促進は大いに評価できる。双日グループという支えがあることの影響が大きいと思われるが、「海ごみゼロ」清掃活動のような従業員が地道に取り組む活動の広がりや主体性の持った活動の展開を期待したい。

○総合的にSDGs達成に取り組んでいると評価しました。サステナビリティレポートなど、外部への公開資料も充実していると感じます。これまでの応募でなかった女性管理職比率目標を掲げたのは、意欲的な取り組みです。ただ、2030年までに女性管理職を5%というのはかなり低い目標に感じます。

優 秀 賞	企業名称	株式会社えびせんべいの里ホールディングス(中部珍味食品協同組合)
	取組名称	産廃排出量を1/10に、新たな商品・循環型な再生利用を目指して
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	12(つくる責任 つかう責任)、13(気候変動に具体的な対策を)、15(陸の豊かさを守ろう)

### 【取組概要】

弊社は、愛知県知多半島にてえびせんべいの製造販売を生業としています。製造種類は約40種となり、割れてしまったものなどは試食としてお客様に提供。姉妹会社の農業生産法人(株)山笑う里(平成27年に設立)では排出される食品残渣を堆肥化し、畑に還元。栽培した野菜について産直にて販売することによる循環型の農業を目指しています。食品グレードの残渣につきましては、おせんべい製造における再利用、農産物とおせんべいを組み合わせた商品づくりに取り組みます。

### 【実績概要】

排出される食品残渣の有効活用。2025年5月にコンポスト機を2台導入。100kg/日×2台年間73トンの食品残渣の排出削減。年間排出量に対して24%強の削減につなげることとなり、CO2排出量は年間138トン排出削減につながります。また処分費用も年間1,460千円の減額になります。堆肥化した肥料の施用圃場では土壌改良につながり、食用グレードで年間数トン廃棄していた商品の再生利用として姉妹会社で開発発売を開始した菓子の売れ行きも潤沢に推移。販路拡大を模索している。

### 【評価コメント】

○廃棄物の再資源化と循環型農業の実現に向けた取組は、効果、普及・汎用性、複合性、将来性の観点で高く評価された。時に、製造工場から排出された廃棄物を堆肥化した飼料を、農業法人と連携して土壌改良を進める取組は、独自性、参画性の観点手非常に高く評価された。

○食品残渣の単なるリサイクルに留まらず、資源化したたい肥を畑に還元し、そこで収穫した野菜の販売まで取り組む循環型農業の構築は大いに評価できる。今後さらに食育、環境教育の場として、この取り組みを生かしていくことはぜひ実現して欲しい。

○着実な取り組みだと思い評価しました。たい肥化と系列事業での活用など、環境配慮の取組みは素晴らしいです。自社の取り組みをもっと公開されるとよいのでは、と感じました(HPなど検索したのですが、この取り組みを紹介した箇所が見つけれませんでした)

審査員特別賞	企業名称	株式会社キング食品(広島珍味食品協同組合)
	取組名称	社員エンゲージメント向上及び環境負荷軽減を目的としたSDGsへの取組み
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	8(働きがいも経済成長も)、13(気候変動に具体的な対策を)

### 【取組概要】

オフィスの改装によるフリーアドレス化を導入。従来の固定型デスクによるオフィスからフリーアドレスのオフィスへ改装。①デスクトップ型パソコンをノート型パソコンへすべて変更②Wi-Fi環境を導入③仕事に応じ何処でも誰とでも自由に仕事ができる環境。④社員同士のコミュニケーションアップとエンゲージメントの向上を目的としました。

### 【実績概要】

快適で機能的なオフィスに刷新したことで社員の満足度とモチベーションがアップしました。また、コミュニケーションの活性化、スペースの有効活用、ペーパーレス化の促進、社員の自律的な働き方の促進等、社員間の距離が縮まりました。Wi-Fi環境を導入したことで紙ベースの会議体をパソコン会議体に変更、FAXをパソコン内に取り込みペーパーレス化に取り組み資源の使用量削減に努めました。(ペーパーレスによる初年度削減目標100千円、実績154千円 ※次年度より目標200千円)

### 【評価コメント】

○オフィス改装にともなう、様々な取組は、社員間のコミュニケーションの活性化は、参画性、将来性の観点で評価できる。また、ペーパーレス化の取組も併せて実施していることについては、複合性の観点で評価できる。

○オフィスのフリーアドレス化や働きやすい職場環境の整備は重要であり、従業員のエンゲージメント向上には寄与するが、多くの一般企業も取り組んでいる事例であり、さらに踏み込んでダイバーシティの促進や再生可能エネルギーの促進等、取り組める幅を広げて欲しい。

○従業員の職場環境の改善は素晴らしい取り組みなのと、これまでの応募でもあまりない活動なので興味深く、評価しました。こうした取り組みは、将来的な人材確保や、ワークライフバランスの達成にもなるので、継続してほしいです。

全珍連理事長賞	企業名称	株式会社かね徳(兵庫県珍味商工協同組合)
	取組名称	フードロス削減
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	12(つくる責任、つかう責任)、14(海の豊かさを守ろう)

### 【取組概要】

- ・カイゼン活動に取り組み始めた2017年度の食品残渣排出量より約3分の1(35%)削減を目指し、2024年6月から2025年5月までの1年間取り組んだ。
- ・各月ごとに2017年度の食品残渣排出量の65%を目標値として算出、見える化し毎月結果を全従業員に共有した。
- ・使用している原料の平均単価で削減金額を算出、見える化し毎月結果を全従業員に共有した。

### 【実績概要】

- ・2017年度の食品残渣排出量比で61.2%の実績であった。
- 従業員一人一人の食品残渣削減への意識が向上し、目標達成することが出来た。

### 【評価コメント】

○フードロス削減に向けた、食品残渣排出量削減に向けた取組のうち、各月ごとに食品残渣排出量や使用している原料の平均単価での削減金額を見える化し、毎月結果を全従業員に共有している取組は、普及・汎用性、参画性の観点で高く評価された。

○食品ロス削減を目指し、具体的な数字で削減効果を確認し、その内容を全従業員で共有化している点は評価できる。その他にアップサイクルや対外的に削減手法等を情報発信していくことも検討していただきたい。

○目標設定をされ、毎月従業員に示すことで、従業員の意欲を持たせるという意味で素晴らしいと思います。取組としてはこれまでもあるものなので、インパクトという意味で少し低い評価となりました。こうした取り組みをさらに広げることを期待します。

全珍連理事長賞	企業名称	株式会社三久食品(大阪府珍味協同組合)
	取組名称	販社も出来る社会貢献
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	8(働きがいも経済成長も)、13(気候変動に具体的な対策を)、15(陸の豊かさを守ろう)

### 【取組概要】

勤怠管理システム導入  
 自動FAX導入  
 社内メールの導入(伝言メモの廃止)

### 【実績概要】

従業員のライフスタイルに合わせた多様な働き方に対応し社員の健康と生産性の向上  
 ペーパーレス化による紙の大幅削減及び業務の効率化と生産性の向上

### 【評価コメント】

- 森林伐採・廃棄物の節減・CO2排出量削減をの減少などを目標に、業務のデジタル化とペーパーレス化に積極的に取り組み、紙資源の削減と業務効率化を図るとともに、誰もが健康で働きがいを持てる職場環境の実現を目指した、勤怠管理システムの導入、テレワーク推進や時短勤務制度拡充していた。これらの取り組みは、効果、普及・汎用性、参画性、将来性の観点で評価することができる。
- ペーパーレス化による紙削減やDXによる業務効率化の取り組みは一定の評価はできるが、既に一般企業にも取り組まれている内容であり、SDGsとして大きな評価をできるものではない。
- 取組というにはやや弱いように感じます。